

第 22 回米百俵賞受賞

(平成 30 年 6 月 16 日表彰)

にじのはしファンド (沖縄県那覇市)



沖縄県内の児童養護施設等の出身の子どもたちに、奨学金の給付や、資格取得資金助成などを行った。

■受賞時プロフィール

児童養護施設を卒園した子どもたちの進学は、経済的な困難から非常に厳しい現実がある。にじのはしファンドは、代表の糸数氏が、その厳しい現実を知り、子どもたちが将来に夢を持ち、それを実現できるように、サポーター一人ひとりの会費をもって支援を行うことを目的として、平成 23 年 1 月に発足した。

沖縄県内の児童養護施設、里親家庭、ファミリーホーム出身者で、大学や専門学校への進学を望む子どもに対して、生活を支援する給付型の奨学金制度や、運転免許などの資格取得資金助成を行い、子どもたちの夢の実現や生活の基盤づくりにつなげている。

支援の仕組みは、昭和 34 年に那覇市首里地区で行われていた「毎月豆腐一丁分」の寄附を募り高校生に学資援助する試みを参考にし、毎月 1 口千円の寄附を募り、サポーターからの寄附を原資に子どもたちに対して支援を行っている。

知人等への声掛けから始まった毎月 1 口千円を寄せるサポーターは、沖縄県内だけではなく、県外からの参加もあり、



▲奨学金で学ぶ希望の星

発足から7年で500名を超えている。夢を持ってその実現に向けて頑張る子どもたちに、柔軟で迅速なサポートを届けることを大事にしている。

サポートをしていた子どもたちから、学業を終えて、社会へ出たときに、話せる人、話せる場がなく、一人で悩みを抱え込んでしまうという声があり、社会へ出た後のサポートも重要と考え、奨学金や資格取得資金助成支援に加え、新たに、児童養護施設等卒園者同士の交流会や、入園者と卒園者との交流会も実施している。実家のように頼れる場所と人、同じ悩みを分かち合える仲間とのつながりを持ち、不安や悩み等を共有する場を提供するなど、今後の活動の広がりが期待される。

■受賞後の活動

令和元年度からは新たに児童養護施設等退所者のアフターケア事業「にじのしずく」を開始。児童養護施設等の退所者の中には様々な事情により進学、就職をしておらず、社会で孤立を深めてしまう者もいることから、彼らの相談先となるべく、LINEによる情報発信やアウトリーチ（積極的に連絡をとったり出向く手法）を行っている。

また、新型コロナの影響により食費を確保できない若者に緊急食費支援を行うなど、児童養護施設等出身の子どもに対する支援を続けている。

■主な受賞歴

○令和元年 第41回琉球新報活動賞